

## 生徒の皆さんへのメッセージ1（2学期前半）

○何事も遅すぎるといふことはありません。新学期の今日から再スタートを切れば、夏休みの遅れも少しずつ取り戻せます。私の宿題もこれからです。  
(30.8.27 2学期始業式)

○平成12年から3年間いらっしゃった武智校長先生が次のように記しておられます。「そして、何よりも驚嘆したのは、生徒会活動であった。担当の先生の指導よろしきを得て、各種行事を校訓『自らを律せよ』に基づいて見事に実践した。特にブロックマッチや運動会の準備・実施に当たっては、いくども役員が会合を重ねて、準備期間・帰宅時刻・行事内容の規律・規制等を周知し、違反には厳罰をもって対処するなど、自主自律の運営を計画・実行した。」と。私も、南高生徒会、つまり役員と全校生徒の皆さんからなる南高生徒会は、県下有数の生徒会だと思います。これから運動会に向けてどうかその力を遺憾なく発揮して、準備に取り組んでいただきたいと思います。  
(30.8.27 2学期始業式)

○生徒の皆さん、平成最後の南高の大運動会、雨雲を遠ざけるべく、大いに「煌めく」べし。  
(30.9.7 運動会開会式)

○余裕の独走もあれば、必死の追い上げもあり。統制の取れた「集団美」もあれば、創意工夫に富んだ「構成美」もあり。男の戦いもあれば女の闘いもあり。……結果に悔しさもあろうが、態度に潔さあり。どのブロックもよく戦い、南高生、見事に、みんな煌めきたり。生徒の皆さん、すばらしい運動会にさせていただき、ありがとうございました。  
(30.9.7 運動会閉会式)

○南高の本日の文化祭を評すれば、「品性」「知性」「感受性」が見事に花開いていたということです。南高の素晴らしさを表す言葉としてもキーワードとなる「品性」「知性」「感受性」だと思います。  
(30.9.26 文化祭閉会式)

○今日の全校朝礼に 1000 人を超える人たちが、きちんと集まっているということだけでも、実は大変すばらしいことです。皆さんは、日々、よく頑張っていると思います。

(詩人塔 和子さんの「胸の泉に」という詩を一部朗読して…)

塔さんは「人は、関わったからこそ生じる『幸せ』や『不幸せ』を、積み重ねて成長し、それを繰り返すことで磨かれていく。人は人の間で自分の想いを削ったり膨らませたりして、生きた証を刻ん

でいく」と詩に綴っておられます。また「何億の人がいたとしても関わらなければ路傍の人、通りすがりの人であり、『胸の泉に 枯れ葉一枚も 落としてはくれない』」と記されています。容易に社会と関わることができなかつた方の、人を想う豊かな愛情と魂の叫びに触れるとき、私たちは、学校という社会で、人と関わり、時には対立することがあったり、辛いことや悲しいことがあったりしても、それは人と関わるがゆえに起こる、人として成長をする上での当たり前のことと受け止めて、人間関係を修復し、友情を育て、より多くの「うれしいこと」や「楽しいこと」を味わっていかねればと切に思います。自分の想いを時には削り、時には膨らめます。これも人として生きていく以上、誰しも経験せざるを得ないことです。想いを膨らますことができるのは、自分を取り巻く人がいて、その人たちがあなたを大切にしてくれているからです。人と関われることは、本当にありがたいことなのだと改めて痛感しています。この南高で、大いに人と関わっていきましょう。

(30.11.2 全校朝礼)